

# 夢と志 育てたい

## 教育普及へ実行委 授業、副読本で支援

北上市の子供たちの夢や志を育成する立志教育の普及を図って、いこうと岩手立志教育支援プロジェクト実行委員会(小笠原味佐枝委員長)が、1日発足した。同市内では、9中学校中5校で立志式が行

### 北 上

われるなど、次代を担う子供たちの夢や理想を育てる取り組みが行われているが、実行委では立志授業・講演会の開催や副読本の作成などを通じて市内での立志教育の取り組みを拡大させたい考えだ。

同日午後から、市文化は、小笠原氏ら設立発起交流センターさくらホール 人9人のほか、立志教育で開かれた設立総会にの普及に取り組むNPO

法人岐阜立志教育支援プロジェクト(井上武理事長)の理事で、同市内中学校で立志授業の講師を務めた経験もある角田識之氏や、同氏が創設したアジア太平洋ルネッサンス協会(APRAIIエープラ)の台湾区代表の邱慧玲氏、王永濟事務局長らが出席。



小笠原委員長は、王陽明の「それ学は志を立てるより先なるはなし」(示弟立志説)を引用して立志教育の重要性を強調するとともに「賛同する若い企業家の方々のエ

小笠原委員長(左)に支援金を手渡す台湾APRAの邱慧玲代表(中央)と王永濟事務局長(右)

ネルギーで進展し、実行委が設立できたことは喜ばしい。台湾の方々からの支援にも深く感謝したい」と述べた。

設立総会終了後、台湾APRAからの支援金50万円と、岐阜立志教育支援プロジェクトの井上理事長夫妻からの支援金20万円の贈呈式が行われた。台湾APRAはメンバー30人が東日本震災

で被災した岩手、宮城、福祉3県の子供たちのために400万円の支援金を用意、同実行委が最初の贈呈先となった。邱慧玲代表は「メンバー一人ひとりが被災者の家族の気持ちで役に立ちたいと思った。角田氏の紹介のおかげで実行委設立という場に立ち会うことができた。一緒に種をまき、この取り組みを大きくしていきたい」と述べた。